

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～

今回は、東部地域包括支援センターからの本宿学区の取組報告と地域共生社会についての意見交換を行いました。

## 明るく楽しくみんなで集える安心安全な学区 by 東部包括（本宿学区）

【地域特性】山間部に町が集約し、かつ名鉄・国道一号線で町が分断されている。坂道が多く、移動しにくい特徴がある。

【概況】2016年10月～、富田病院から地域貢献への協力の相談があり、高齢者の活動の場の情報共有や連携として話し合いが行われた。当初は病院のリハビリスタッフと包括の2者で活動を始めたが、3回目より地域役員も加わり、集いの場の把握の為にマップづくりやアンケート調査など活動が発展し、会の名称も「本宿げんきを考える会」となり現在まで活動が続いている。

【内容】マップ作成に伴い、地域による通いの場の偏りが判明した。昨年の富田病院内でのごまんぞく体操の体験会や東町での開始を皮切りに、現在学区内の6か所でごまんぞく体操が行われているが、目標は全町での実施。

また昨年住民アンケートが旧東海道沿いの4町に対して行われた。アンケート結果が高齢者の困りごとや地域活動の見直しを進める手がかりとして活用できる為、来月の会議で今後の検討課題や方向性を考える。

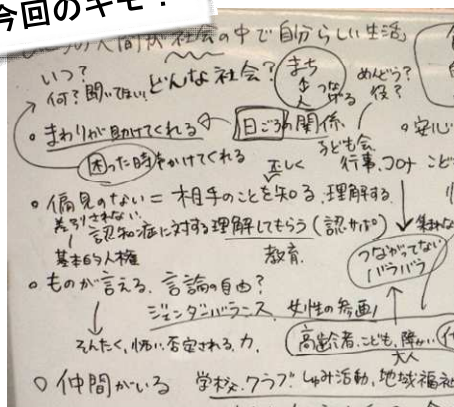
【課題】ごまんぞく体操が地域の共通テーマになり得るのか。移動販売が他の箇所でも展開できるのか。実動者に現状を聞きながら、今後の会の方針に活かしていく。



第1回	2016.10.19	富田病院スタッフ 東部包括	富田リハと包括との連携強化	高齢者の活
第2回	2016.12.20	富田病院スタッフ 東部包括	富田リハと包括と地域との連携強化	・富田リハよ ・ごまんぞく
		副代表 副代表	副代表の会や生活支援センター 副代表の	・高齢化、調

会議構成メンバーに専門職や集いの場の実動者、女性と男性の比率を整えるなど多様性を含めることで、新たな課題やアイデアが生まれるのでは

## 今回のキモ！



## 地域共生社会についてイメージを共有しよう！第2弾！ 参加者討論

【概要】前回討論において「ひとりの人間が社会の中で自分らしい生活が続けることができる社会」における“自分らしい生活のために必要な要素”について議論を深めた。引き続き、共生社会について参加者間でイメージ共有を行った。

【内容】“どんな社会なら自分らしい生活が送れるか”を議論：周囲が声をかけてくれる・困ったときに助けてくれる、偏見がない、仲間がいる、安心して暮らせる、誰かと繋がれる、選択できる等

- ✓ 雰囲気・空間・心地よさ：構って欲しい人も構ってほしくない人も居心地が良い
- ✓ 安心して暮らす→災害への備えを日常的に取り組み仕掛けを作る例）非常用持ち出し袋のチェックは〇日に、年1回地域で防災訓練
- ✓ 今まで高齢者には高齢者の健康講座を開いてきた。共生社会においては世代・暮らしを超えた多様性が求められる。
- ✓ マズローの欲求5段階説において社会的承認など精神的な部分が満たされないと、物理的な生理・安全の欲求のみでは満たされないのでは

まちと人を繋げると、世代の垣根を越えて興味のある人が集まってくる。暮らしに多様性が生まれる。それが共生社会に繋がるのでは。  
例）講師がまちの酒屋さんや自転車屋さん

### 編集後記：

今回の包括ゼミも新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に参加者の7割以上がオンラインでの参加となりました。オンラインでの参加者の満足度を向上させるにはどうしたら良いのだろうか...日々試行錯誤しております。

さて、今回も振り返りである包括職員から素敵な発言が出ました。「人と人とは意図的に繋がろうとしないと、バラバラになってしまう。地域の役員と高齢者や子どもを繋ぐ働きかけが何か出来ないか考えている。コロナをポジティブに捉えることで共生社会の実現に繋がるきっかけができた。」と。コロナ禍で生まれた“つながる感覚”、今後も大切にしていきたいですね。